



# KPMG Global Tech Innovator Competition in Japan



# Contents

- 03 ごあいさつ
- 04 **KPMG Global Tech Innovator Competition**
- 06 **Interview | Thermalytica shines at GTIC!**  
つくば発のスタートアップが世界一に
- 08 **Dialogue | Incubation Next<sup>®</sup>**  
次世代のエコシステム・スタートアップ支援
- 10 **2025年エントリー情報**
- 11 **KPMGジャパンのインキュベーション支援**

# ごあいさつ

当イベントへの応募をご検討の皆様へお礼を申し上げます。

皆さまは、それぞれにさまざまな動機から起業を決意し、アイデアを出して事業を企画し、仲間を集め、意見を交わし、資金を集めることに成功し、商品やサービスを開発し、最初のクライアントにたどり着いて商品サービスを提供し…という、誰もが経験できることではない、素晴らしい成功体験をお持ちです。私たちは皆さまのその勇気と粘り強い活動を、心からリスペクトしています。

そのご経験や事業にかける想い、そしてご自身とチームが目指すビジョンを、存分にお話していただければと思います。

イノベーションはボトムアップで起き、一人ひとりのつながりから始まります。皆さまの熱いお話を聞けるのを楽しみにしております。



**大谷 誠**

**KPMG**ジャパン  
プライベートエンタープライズ  
セクター  
統轄パートナー

日本のディープテック・スタートアップには高いポテンシャルがありますが、その成長にはヒト・モノ・カネのエコシステムが必要であり、グローバル展開を見据えた事業展開が不可欠です。

現在は、地球温暖化・エネルギー問題・社会の分断および格差拡大などの社会課題が山積しています。このような社会課題に対し、新しいテクノロジーを有するスタートアップによる社会実装と課題解決が期待されており、それを目指して起業する若い方々が、日本でも増えていることを実感しています。

KPMGジャパンは、KPMG Global Tech Innovator Competitionを通じ、日本の有望なディープテック・スタートアップを世界に向けて発信し、「交流活性化によるイノベーション創出」を促進しています。2024年の日本大会には各地から高いポテンシャルをもつテックスタートアップにご参加いただきました。そして日本代表となったThermalytica社が世界大会で優勝し、世界23ヶ国1,500社の頂点に立つという快挙を成し遂げました。日本のディープテックのポテンシャルを世界に見事証明したと思います。

2025年大会にも、高い志を有する起業家の皆様にぜひご参加いただき、世界に出ていききっかけにしてほしいと願っています。



**阿部 博**

**KPMG**ジャパン  
プライベートエンタープライズ  
セクター  
スタートアップ統轄パートナー

# KPMG Global Tech Innovator Competition

KPMG Private Enterpriseが主催する「Global Tech Innovator Competition (GTIC)」は、世界各地から集まるテックイノベーターおよび未来のディープテックのリーダーにスポットライトを当て、多くのチャンスを提供することを目的としています。予選のピッチイベントで代表に選出された各国の企業は、KPMGの専門家のサポートや指導を受けたのち、ポルトガルのリスボンで行われる世界大会に臨みます。予選を勝ち抜いた企業が肩を並べる世界大会には、各国のファウンダーや投資家も参加し、スタートアップにとって認知度を高める絶好の機会となります。



Forbes  
GTIC特集記事

## 日本大会



2024年7月26日、KPMGジャパンは日本代表を選出するピッチイベントを開催しました。書類審査を通過したスタートアップ企業38社による熱いピッチの後、審査員による厳正な協議が行われ、株式会社Thermalytica（サーマリティカ）が最優秀賞を受賞するとともに、日本代表として選出されました。また、その他5社に各種の賞が授与されました。

## 受賞企業

### 2024年度 日本代表（最優秀賞）

テクノロジー、市場性および成長性を総合的に踏まえて、日本代表としてふさわしい企業

株式会社Thermalytica

### Private Enterprise賞

審査員が最も「イノベーションを起こす可能性が高い」と認めた企業

AC Biode株式会社

### プレゼン優秀賞

ピッチのレベルが非常に高かったと認められた企業

トレジェムバイオフィーマ株式会社

### あずさ監査法人 インキュベーション賞

審査員が最も「今後の成長性が高い」と認めた企業

TopoLogic株式会社

### 審査員特別賞

KPMG以外の外部審査員から優秀と認められた企業

株式会社3DC

### KPMG Dream賞

アーリー企業の中で最も今後の活躍が期待される企業

Floatmeal株式会社

## Winners Voice

### 篠本 遼氏 株式会社Thermalytica / Head of Corporate Strategy

このような素晴らしい大会で最優秀賞をもらえてただただ光栄です。我々は技術的には筑波のディープテックですが、そこには素晴らしい技術がたくさんあります。そのうちの1社が弊社であり、他に負けないよう、その技術を存分に世界にPRしていきたいと思っています。日本を変えていくという視点に立つと1社が突き抜ける必要があり、その存在が自社でありたいと思っているので、今後拡大に向けて頑張っていきます。



幸田審査員長と篠本氏

## 世界大会

### 日本代表の株式会社Thermalyticaが最優秀賞を獲得

2024年11月14日（日本時間）、ポルトガルのリスボンで開催された世界大会において、Thermalytica社が「Global Tech Innovator 2024」の最優秀賞を受賞しました。同社の先駆的な断熱ソリューションが高く評価されました。

大会は各国の予選を勝ち抜いた23の国と地域の代表が、それぞれ3分間のピッチを繰り広げる形で進行了しました。今年は水質モニタリングや農産物の商流、資源リサイクルを支えるデジタルプラットフォームの構築や、カーボンニュートラルなどの環境課題解決の技術を紹介する会社が多い傾向にありました。

大会の様子は会場での聴講者のほか、ライブで世界中にオンライン配信され、世界各国のファウンダー、投資家、メディア関係者らに対し、知名度を高める機会となりました。



2024年  
世界大会の様子



### Winners Voice

このような権威あるグローバルコンペティションで最優秀賞をいただいたことは、これまでの私たちの取組みが画期的であることや、チームの才能を認めていただけたのだと感じています。本当に光栄です。今回の受賞は、イノベーションの限界突破を図っていくこととする私どもにとって大変励みになると感じています。産業界がカーボンフットプリントを削減し、未来へのサステナブルな変化の推進に役立つべく、私たちはこれからも先端的かつ革新的な断熱材ソリューションの提供に注力していきます。



ラダー・ウー氏  
Rudder WU

株式会社Thermalytica  
ファウンダー・CTO

### 受賞企業

#### 1 株式会社 Thermalytica

● 日本

熱伝導を大幅に減少させる画期的な超絶熱エアロゲルであるTIISA®により、革新的な断熱ソリューションを提供



Thermalytica社  
Rudder Wu氏

#### 2 Gelatex Technologies

● エストニア

世界最速のナノファイバー製造技術であるハロスピングを通じ、培養肉や傷跡減少等の傷ケアなどの応用において、3D細胞培養や組織工学を促進



Gelatex Technologies社  
Mart-Erik Martens氏

#### 3 FluxGen Technologies

● インド

IoTとAIを活用して水の管理を監視、計測、分析するための、水のインテリジェンスSaaSプラットフォームを提供



FluxGen Technologies社  
Ganesh Shanker氏

#### People's Choice Protecting Brains & Saving Futures

● ブラジル

革新的なデジタル神経NICU（新生児ICU）を活用し、脳損傷のリスクを抱える世界中の早産児の神経障害を検出し治療



Protecting Brains & Saving Futures社  
Dr. Gabriel Variane氏

# Thermalytica shines at GTIC!

つくば発のスタートアップが世界一に  
接戦を制したのは技術力、英語力、ピッチ力が揃っていたから

2024年11月14日（日本時間）にポルトガルのリスボンで開催された「Global Tech Innovator Competition 2024」世界大会。世界各国における1,500もの企業の中から選出されたスタートアップ23社がレベルの高いピッチを行うなか、最優秀賞を受賞したのは日本代表のThermalytica社。世界大会で登壇した同社ファウンダー・CTOのラダー・ウー氏は素晴らしいピッチで世界を制しました。快挙を成し遂げたウー氏に、KPMGジャパンの阿部博がインタビューを行いました。

## 将来は起業することを見据え 来日を決めた

**阿部** 世界大会での優勝おめでとうございます。ウーさんはさまざまな国でキャリアを築いていらっしゃいますが、今までのご経歴などを簡単に教えていただけますか？

**ウー氏** 私は台湾で生まれ、中学卒業後に家族とともにカナダに移住して、カナダでトップクラスとされるブリティッシュコロンビア大学（UBC）に進学しました。当時から材料工学に強い興味を抱いており、卒業後は材料工学で世界的に有名なインペリアル・カレッジ・ロンドンに留学、修士号と博士号（Ph.D）を取得しました。その後来日し、2009年にフェローとしてつくば市にあるNIMS

（国立研究開発法人物質・材料研究機構）のICYS（若手国際研究センター）に入りました。

**阿部** 日本に来られたのにはどのような理由があったのでしょうか？

**ウー氏** 「21世紀はアジアの時代」と言われていますし、ずっとアジアに戻りたいという気持ちがありました。NIMSは材料工学では世界でもトップクラスの研究機関で、イギリスの大学院で学んでいるところから論文などでその名を目にする機会もありました。さらに私はいつか起業したいと思っていたのですが、起業する場合はその国の市場規模が重要です。日本は当時、世界第2位の経済大国でしたから、その点も魅力でした。

**阿部** その後、GTICでもプレゼンされた超断熱新素材TIISA®を開発し、特許を出願されたわけですね。開発にあたって留意されたことはあるのでしょうか？

**ウー氏** 方向性が似たような研究グループが多いなか、いかに自分ならではのオリジナリティを加味するかに腐心しました。特許を取得するには進歩性、新規性、経済性の3つが揃うことが大切だと考えています。TIISA®は熱伝導を大幅に減少させる画期的な超絶熱エアロゲルで、2016年の開発後、2021年にはベンチャー企業Thermalytica社のファウンダー・CTO（最高技術責任者）となりました。



阿部は日本予選では審査委員も務めた

## 将来ではなく目の前の課題を 解決できることをアピールした

**阿部** 今回、日本予選ではHead of Corporate Strategy（経営戦略部 部長）の篠本遼氏が登壇され、リスボンでの世界大会では英語が堪能なウーさんが登壇されました。現地には超優秀な人々が集まり、各国代表が素晴らしいピッチを披露して、まさにどこが勝ってもおかしくないという状況でしたが、そんな中でThermalytica社が優勝できた要因はどこにあると思いますか？

**ウー氏** 将来的な可能性という点では高い技術力を持つスタートアップがいくつかありましたが、彼らと差別化を図るにはどうしたらよいかと考え、「我々の技術は“将来”ではなく、目の前にある環境問題をすぐに解決できる」という点が伝わるようにアレンジしました。その方がよりインパクトを与えられるだろうと考えたのです。

**阿部** 技術力そのものがすごいのはもちろんですが、ウーさんのピッチはわかりやすく、皆がその技術力の高さをすんなりと納得できたと感じました。技術力と英語力とピッチ力、これらが揃わないと世界ではなかなか勝てないかもしれません。



## Profile



**ラダー・ウー氏**  
Rudder WU  
株式会社Thermalytica  
ファウンダー・CTO

台湾生まれ。中学卒業後カナダに移住。ブリティッシュコロンビア大学卒業後、イギリスのインペリアル・カレッジ・ロンドンでPh.Dを取得。2009年来日。NIMS主任研究員を務めるほか、2021年に株式会社Thermalyticaを設立、CTOを務める。



## 日本の研究者は もっと起業に目を向けるべき

**ウー氏** スタートアップのピッチと研究者の発表は全然違いますよね。研究者の“発表”は皆さんにもっと理解していただきたい気持ちが強いいため、情報量が多く長くなりがちです。一方、スタートアップのピッチは「One slide one message（1つのスライドには必ずワンメッセージでクリアに）」が鉄則です。

**阿部** そういう意味では、ウーさんは研究者でもありませんが、やはり起業家なのかなと感じます。

**ウー氏** Thermalytica社の本拠地であるつくば市は研究者が非常に多い街です。つくばに眠る“技術の埋蔵量”はすごいものがあると思っています。日本の研究者は非常にまじめで優秀なのですが、研究に没頭しすぎて起業のことを考えていないのもったいないと思います。研究者自身が起業するか、起業したい若者などと連携することなどがもっと必要ではないでしょうか。

**阿部** 実は世界大会が終わった後の交流会で、他国のKPMGの人から「グッド・チョイス」と声をかけられたんです。ウーさんもおっしゃったように、つくばをはじめ日本にはすごい技術がたくさん眠っているわけですが、そんな中で、世界で認められるような選択をしたのはよくやったね、という意味でした。KPMGジャパンとしては今後も、世界は何を求めている、どうすれば世界で勝てるかという視点のもとに、スタートアップを支援していきたいと思っています。Thermalytica社に続くようなスタートアップが日本からどんどん出てくれば、もっともっと日本は発展していくのではないかと思います。



**阿部 博**  
Hiroshi ABE  
KPMGジャパン プライベートエンタープライズ  
セクター スタートアップ統轄パートナー/  
あずさ監査法人 常務執行理事 インキュベーション  
部長/公認会計士

監査業務のほか、大学発ベンチャーへのサポートや、オープンイノベーションのイベントを推進。KPMGジャパンの活動としてプライベートエンタープライズセクター スタートアップ統轄を担当し、スタートアップの発掘・育成支援に従事している。

Incubation Next<sup>®</sup>

## 次世代のエコシステム・スタートアップ支援

日本のスタートアップコミュニティを牽引するVenture Café Tokyo。ECOSYSTEM INSIGHTなど、KPMGジャパンとの連携プログラムも実施しています。Venture Café Tokyoの小村隆祐氏と、KPMG/あずさ監査法人の佐藤太基、須藤章の両名が、スタートアップ支援の最前線について語り合いました。

### 人対人の関係性の近さは スタートアップ支援の魅力

**須藤** まずは簡単に自己紹介をしたいと思います。小村さんからお願いできますか？

**小村氏** Venture Café Tokyoのエグゼクティブ・ディレクターを務めています。私自身は2018年の立ち上げ時からVenture Café Tokyoに関わっています。Venture Caféはボストン発のイノベーション・エコシステムで、“Connecting innovators to make things happen”をミッションに掲げています。Venture Café Tokyoは、現在では毎年約3万人がイベントに参加するような国内最大のイノベーションコミュニティとなっています。



人間関係の魅力を語る佐藤

**佐藤** 私は会計士としてのキャリアは約25年あり、スタートアップのIPO支援のほか、国際財務報告基準にコンバーゼンスするようなアドバイザリー業務や、海外子会社の決算体制を整える等の仕事に数多く関わってきました。実はスタートアップというも

のに着目し始めたのは2000年ごろからで、そのころと比べると、スタートアップを取り巻く環境は激変したと思います。

**須藤** 私はもともとあずさ監査法人で会計監査に携わっており、スタートアップのIPOなどを支援してきました。現在はイン

キュベーション部という部署で、大学発スタートアップを中心に、新たな社会価値が創造されると考えられる革新的な技術を有する企業および起業家を発掘・育成・支援しています。

**佐藤** 小村さんはアントレプレナーシップ教育で有名なアメリカのバブソン大学のご出身ですよね。アントレプレナーシップは、今でこそ脚光を浴びていますが、一昔前は現在のような華やかさはなかったと思います。バブソン大学に留学されたきっかけや、現地での気づきなどはありますか？

**小村氏** 日本の大学を卒業して社会人になって積んだ経験を、いい意味でギアチェンジしたいという思いがあってバブソンのMBAを選びました。現地で日々を過ごすうち、「自分のやりたいことや自分の思いを置き去りにしている



情報発信を強化したいという須藤

自分」に気づいたんです。しかもこれは自分だけでなく、日本全体の問題であることも。自分の中にある「何かをやりたい」という思いを120%振り切ることができる社会。そういうものを作るべきだと感じました。

**佐藤** 私は小村さんほど深いことを考えていたわけではないのですが、なぜ監査法人の中でスタートアップ支援を長年やっているかという、スタートアップの方々は非常に熱意にあふれ、人間らしさを感じるからなんです。大企業のように整備されているわけではないので、我々が提供するサービスに頼ってくれたり、また感謝の気持ちを表現してくださることもあります。そういう人対人の関係性の近さは魅力を感じるどころです。

## 中長期を見据えた エコシステムの形成に努める

**須藤** KPMGジャパンとしてどのようなインキュベーション活動を行っているかということを少しご紹介したいと思います。実は先日「Incubation Next®」という商標を登録しました。KPMGジャパンは従来からエコシステムの発展やスタートアップ支援に尽力しており、さまざまな活動を行っています。大学と連携したシンポジウムを開催したり、各種機関と協力してエコシステムの形成に参加したり、グローバルネットワークを活かし、日本の技術を世界に発信していくような取組みも実施しています。その1つが「Global Tech Innovator Competition」で、世界各地から集まるテックイノベーターおよび未来のディープテックのリーダーにスポットライトを当て、多くのチャンスを提供



補完しあえる関係だからこそ長続きする



日本の未来を共に作っている実感があるという小村氏

することを目的としています。またVenture Café Tokyoでは、社会インパクトをもたらすスタートアップなどを持続的に産み出すイノベーション・エコシステムを創造するため「ECOSYSTEM INSIGHT Powered by KPMG」と題するセッションシリーズを展開しています。

**小村氏** KPMGさんは中長期を見据えた形でスタートアップ支援をされていらっしゃるんですよね。エコシステムの形成に長期に関わっていくことの重要性をしっかりと理解した上で多岐にわたる支援をなさっている印象があります。だからこそVenture Café Tokyoとしてもご一緒できずし、日本の未来を共に作っているという実感があります。

**須藤** そうですね。10年後、20年後、自分たちが支援してきたスタートアップの中から、社会に大きなインパクトを与え、新しい価値を創造する企業が輩出し、大きく育っていくようなエコシステムの形成を目指しています。これまで、情報発信が弱かった部分があるのですが、「Incubation Next®」を商標登録したことをきっかけに、そのあたりも強化したいと考えています。

**佐藤** ひとくちにスタートアップ支援といっても、我々とVenture Caféさんでは活動領域が異なります。例えば日本最大級のピッチイベント「ROCKET PITCH NIGHT」は将来性を感じさせるスタートアップも多く参加しますが、創業期の会社も参加対象となっているなど、我々が直接運営するというのはちょっと違うと感じます。活動領域が違うからこそ、お互いができないことを補いあえるし、シナジー効果も期待できます。「ECOSYSTEM INSIGHT」ももう4年になります。補完し合える関係だからこそ長く続いているのかもしれないね。

## Profile



**小村 隆祐氏**  
Ryusuke KOMURA  
Venture Café Tokyo  
エグゼクティブ・ディレクター

同志社大学経済学部卒業、Babson College F. W. Olin Graduate School of Business (MBA) 修了。2018年3月よりVenture Caféの東京拠点の立ち上げをリード。現在はエグゼクティブ・ディレクターとしてコミュニティを支える。



**佐藤 太基**  
Daiki SATO  
KPMG/あずさ監査法人  
パートナー

成長段階にある企業の管理体制構築やグローバル化支援にて多くの経験を有する。現在は、監査業務に従事すると共に、インキュベーション部に書籍の執筆やシンポジウムの開催など、スタートアップ支援の活動に広く取り組んでいる。



**須藤 章**  
Akira SUDO  
KPMG/あずさ監査法人  
企業成長支援本部 マネージャー

上場企業の会社法・金融商品取引法監査業務に従事するほか、直近では上場を目指す企業の準金商法監査業務に従事。またインキュベーション部にて大学発スタートアップおよび主要大学のスタートアップ創出プログラムの支援にも注力。

# 2025年エントリー情報

2025年もKPMG Global Tech Innovator Competitionの開催が予定されています。詳細決定後にご連絡さし上げますので、ご興味をお持ちの方は、ぜひ事前登録をお願いします。

事前  
登録は  
こちら



## スケジュール (予定)

2025年4月15日	募集締め切り
2025年4月16日～5月中旬	書類審査
2025年7月15日	日本大会 (東京)
2025年11月	世界大会 (ポルトガル)



## 募集対象

成長段階にある企業で、革新的で技術優位性が高く、グローバルで活躍できるスタートアップを募集します。

- (1) 日本に所在するスタートアップ
- (2) 事業開始して7年以下
- (3) 売上が100万～1500万米ドル程度、または資本金50万米ドル以上
- (4) テクノロジー企業やテクノロジーを組み込んだビジネスを行っている企業
- (5) 大手の企業の傘下でないスタートアップ
- (6) ピッチを英語で行える企業 ※日本大会は日本語、世界大会では英語 (3分間) のピッチとなります。
- (7) 日本大会で優勝した場合、2025年11月に開催予定のポルトガル・リスボンでのファイナルピッチに参加できる企業

## 応募書類

応募の際は、以下書類をご送付いただきます。審査結果については、結果に関わらず応募者全員に通知します。また、書類審査通過者に日本大会の詳細をご連絡します。

- (1) 直近の決算書一式 (貸借対照表、損益計算書)
- (2) 直近の登記簿謄本
- (3) 会社紹介資料 / 製品・技術・サービスの説明資料 (※ピッチに使用する最終版でなくてもかまいません)

## 参考 | 2024年度 日本大会審査員

### 幸田 博人

株式会社イノベーション・インテリジェンス研究所  
代表取締役社長

### 室田 浩司

KSACプログラム代表

### 中川 敦寛

東北大学病院 産学連携室室長・教授

### 太田 裕朗

早稲田大学総長室参与

### 樽谷 範哉

日本貿易振興機構 (JETRO) イノベーション部  
次長 (スタートアップ担当)

### 小村 隆祐

Venture Café Tokyo エグゼクティブ・ディレクター

### 阿部 博

KPMGジャパン プライベートエンタープライズセクター  
スタートアップ統轄パートナー  
あずさ監査法人 常務執行理事 インキュベーション部長

# KPMG日本のインキュベーション支援

KPMGは、監査、税務、アドバイザリーサービスを提供するプロフェッショナルファームのグローバルネットワークです。現在、世界142の国と地域のメンバーファームに約275,000名のプロフェッショナルを擁し、サービスを提供しています。

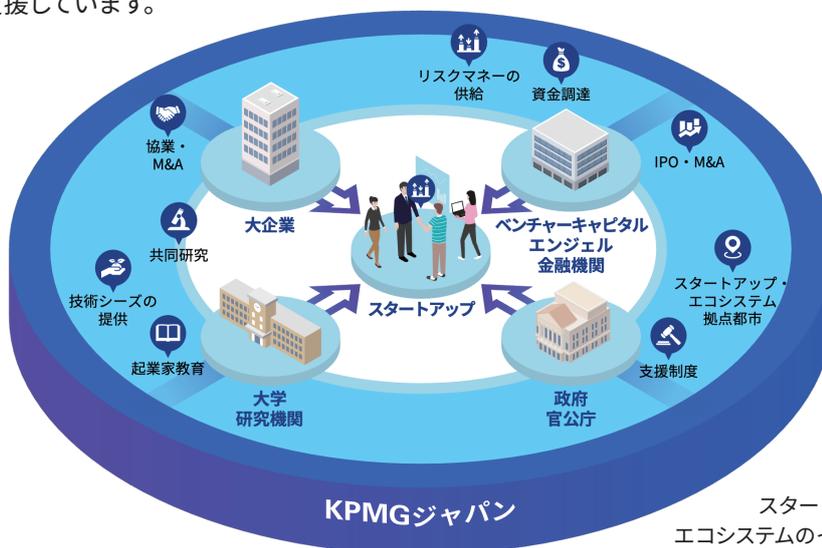
KPMG日本は、KPMGインターナショナルの日本におけるメンバーファームの総称であり、監査、税務、アドバイザリーの3つの分野にわたる9つのプロフェッショナルファームによって構成されています。クライアントが抱える経営課題に対して、各分野のプロフェッショナルが専門的知識やスキルを活かして連携し、またKPMGのグローバルネットワークも活用しながら、価値あるサービスを提供しています。

## Incubation Next®

KPMG日本は「Incubation Next®」というコンセプトのもと、イノベーションを原動力に成長するスタートアップ企業と、独自の企業理念を継承して永続的な成長を目指すファミリービジネス企業が直面する課題の解決に寄り添い、新たな社会価値創造の加速を支援しています。



KPMG日本  
インキュベーションサイト



## Venture Pulse Q3 2024 Global analysis of venture funding [日本語抄訳版]



2024年第3四半期のベンチャーキャピタルによる投資を、グローバル、米国、南北アメリカ、欧州、アジア別に分析し、各トピックスと注目すべき2024年第4四半期のトレンドを解説しています。



## KPMG グローバルテクノロジーレポート 2024



グローバルの調査結果を基に、テクノロジーが目覚ましい速度で進化するなかで企業が目指すべきスピード、セキュリティ、価値のバランスを探ります。



## お問い合わせ先

有限責任 あずさ監査法人

企業成長支援本部

[KPMG-contacts@jp.kpmg.com](mailto:KPMG-contacts@jp.kpmg.com)

本冊子で紹介するサービスは、公認会計士法、独立性規則および利益相反等の観点から、提供できる企業や提供できる業務の範囲等に一定の制限がかかる場合があります。詳しくはあずさ監査法人までお問い合わせください。

ここに記載されている情報はあくまで一般的なものであり、特定の個人や組織が置かれている状況に対応するものではありません。私たちは、的確な情報をタイムリーに提供するよう努めておりますが、情報を受け取られた時点およびそれ以降においての正確さは保証の限りではありません。何らかの行動を取られる場合は、ここにある情報のみを根拠とせず、プロフェッショナルが特定の状況を綿密に調査した上で提案する適切なアドバイスをもとにご判断ください。

© 2025 KPMG AZSA LLC, a limited liability audit corporation incorporated under the Japanese Certified Public Accountants Law and a member firm of the KPMG global organization of independent member firms affiliated with KPMG International Limited, a private English company limited by guarantee. All rights reserved.

The KPMG name and logo are trademarks used under license by the independent member firms of the KPMG global organization.